

連載



お伴としての ChatGPT

生成AIアシスト 特許の調査&出願

第2回 もっと良い回答をAIから引き出す
プロンプト入力のコツ

深川 栄生

Shigeo Fukagawa

生成AIから良い回答をもらうには 指示文「プロンプト」が重要

● AIへの指示文を「プロンプト」という

今回は、AIを効果的に活用するためのプロンプトの基本的な考え方や、具体的な応用例を解説します。

プロンプトとは、AIに対して「何をしてほしいか」を伝える指示や質問のことです。例えば「今日の天気を教えて」や「これを英語に翻訳して」といった文章がプロンプトにあたります。

● プロンプトが曖昧だと回答も曖昧になる

これらは日常会話で使う言葉とほとんど変わりません。しかし、人間が相手であれば多少曖昧な質問でも意図を汲み取ってもらえますが、AIの場合は指示が曖昧だと回答も曖昧になることがよくあります。

では、どうすればAIに意図が伝わる明確なプロンプトを作成できるのでしょうか。基本は、プロンプト

の「必須要素」を書き、目的に応じて「任意要素」を付け加えることです。

プロンプト = 必須要素 + 任意要素

必須要素と任意要素について、プロンプト作成例を交えながら順に紹介します。

● プロンプトに重要…「何を(対象)」と「どうする(指示)」

プロンプトに不可欠な必須要素とは、「何を」「どうするか」を伝える部分であり、「対象」と「指示」から構成されます。「特許について説明して」というプロンプトも「特許(対象)」と「説明して(指示)」という2つの要素に分けられます。この必須要素を意識するだけで、プロンプトの質は格段に向上します。

必須要素 = 対象(何を?) + 指示(どうする?)

何を…対象を明確に指示するコツ

まず、AIに処理させたい具体的なテーマやモノを「名詞」で記述します。対象が絞り込めていないと、AIの回答は曖昧になりがちです。

対象を明確にするには、主に次の2つの方法があります。

● 名詞・名詞句を連ねる

図1の「発明」に「技術的」を書き足すように、名詞や名詞句を付け加えていくことで、AIに処理をさせたい対象を明確にしていきます。

● 名詞の前に説明語句を加える

名詞の前に形容詞などの連体修飾語を加えることで、対象をより具体的に示せます。

「出願書類」だけでは、何の出願か?(特許? 商標? 意匠?), どの分野か?(医療? AI? 日用品?), どんな状態か?(新規? 不備あり? 提出済み?)といった情報が不足しているため、プロンプト作成者の意図がAIにうまく伝わらない可能性があります。マルとバツの例で示すと以下ようになります。

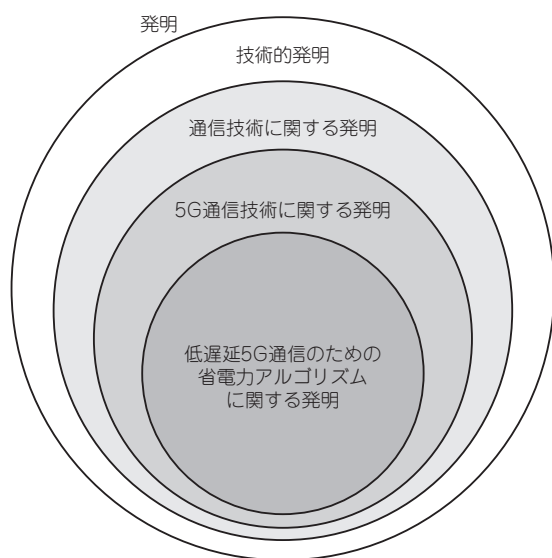


図1 生成AIから良い回答を得るには「対象」を明確に
名詞や名詞句を重ねるほど対象の「的」を絞り込める